

R5薬用作物産地支援 栽培技術研修 秋田会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 峰浜地区文化交流センター峰栄館（秋田県八峰町峰浜田中野田沢20-1）多目的ホール

実施時期： 9月28日(木)～29日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月28日 (木)	13:10-13:40 (30分)	13:00現地集会場所：東能代駅（JR東日本）	研修の概要説明	事務局	
	13:40-15:40 (100分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	八峰町（東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結）の圃場における現地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	門脇 朝哉	八峰町農林振興課副課長
	15:40-15:45 (5分)	移動 →研修会場		事務局	
	16:00-16:50 (50分)	[講義] 薬用作物の国内生産拡大の取り組み	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	兀下 敏幸	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班
	17:10-17:40 (30分)	移動（利用希望者） 研修会場→能代駅			
9月29日 (金)	8:30-9:00 (30分)	移動（利用希望者） 能代駅→研修会場			
	9:20-10:40 (80分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について	八峰町が連携して取り組んでいるキキョウの栽培技術および薬産協が設定した重点品目について紹介する	飯田 修	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター 客員研究員 東京生薬協会栽培指導員
	10:50-11:30 (40分)	[講義] 生薬の郷を目指して	八峰町における薬用作物生産に関する地域・生産者の取り組みについて、産地作りのきっかけから現状と課題、今後の展望を紹介する。	門脇 朝哉	八峰町農林振興課副課長
	11:40-13:15	昼休み (移動を含む)	11:40 峰栄館 出発（町営バス） 11:55 道の駅みねはま 到着 （参加者ランチタイム） 13:00 道の駅みねはま 出発 13:15 峰栄館 到着		
	13:20-14:50 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:50-15:10	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	
	15:20-15:50 (30分)	移動（利用希望者） 研修会場→東能代駅			